

「本職相手は流石にキツイか…」

「キツくねえもん！オレ勝つもん！」

思わず漏らした本音を聞き逃さなかったライドラモンの抗議を無視しながら、相原はぴったり後ろに着いた紫色の竜を見る。

ギガドラモン、本来の仕様から更に改造され大量の火器を備え、背負った一対の翼にはどこから調達したのか、戦闘機用のジェットエンジンが付けられその速度と空戦での優位性を更に増している。ライドラモンが地上と同じ要領で空を駆ける力を持っていても、空中戦闘の為に強化調整された相手と空で戦うには分が悪い。

放たれるミサイルを雷で撃ち落とし、速度を落とさず駆けているおかげで追い付かれる事だけは避けられているがそれも続けばジリ貧だ。

「少し無茶をするか…チビ、奴の後ろを取つたらそのまま撃ち抜くぞ」

「いいけど…どうやって後ろ取んの？」

「言つたら、無茶をするのさ」

後方のプレッシャーが増した次の瞬間、相原とライドラモンに大量の熱が迫る、雷で撃ち落とし切れない量のミサイルを叩き込み一気に追い詰めようという腹なのだろう。

紫色の巨体から飛び立った大量の飛翔体が相原の背に迫る。

当たれば即死、体は地に落ちる事もなく消し飛ぶだろう死の群れを前に相原は薄く微笑んだ。

「首尾よく行つたら…自慢出来るな、ライドラモン、アーマーパージ」

アーマーを失い、腕の中にすっぽり収まる姿になったパートナーを抱えた相原の体が何の支えもない空中に投げ出される。

「……ッ！」

ライドラモンの速度と空気抵抗を和らげていた力を失った事で発生した空力ブレーキがその体に直撃し、意識諸共吹き飛ばすような衝撃に見舞われる。

目標の唐突な縮小、あまりに急激な速度の低下、それらに対応仕切れなかったミサイルとギガドラモンが相原を追い越し、追う側追われる側の位置は逆転した。

「取つたぞ…、デジメンタルアップ…！」

身を切り裂くような風と眩む視界の中で意識を手放さなかった男、その腕の中で守られていたブイモンが飛び出すと同時に次のアーマーを纏う。

希望と名付けられた力が小さな竜の体を覆う、形作るのは人に近い屈強な上半身に四足獣の体を備えケンタウロスを思わせる重厚な竜戦士、サジタリモン。

空を飛ぶ力を持たない形態は重力に任せ落下しながら、その最大の武器である弓を引き絞り必殺の一撃を放った。

それは自滅と紙一重の手段で背後を取られた事に動搖したギガドラモンが旋回、その首を敵へと向ける一瞬前。

再び敵を見据えようとしたその眼は自分に向かう鎌の鈍い光を認識したと同時にその頭ごと消滅した。

「デジメンタルアップ…」

本日2度目の空中でのアーマーパージとアーマー進化。

短期間での目まぐるしい変則的な動きに人間デジモン双方共に疲労を隠せず。

いつもより重く感じる相原を乗せ、のそのそと階段を降りるように地面へ降りていくライドラモンもパートナー同様に重いため息を吐いた。

「コースケ…、オレもうこの戦法やんないかんなあ、もっと良い空中殺法考えて」

「ああ…、俺も何度も曲芸をやりたくはないからな…」

